

CBR – 変化のマトリックス

コミュニティにおけるインクルーシブ開発

インクルージョン

モビリティ・インディア 所長
アルбина・シャンカー

Ms Albina Shankar
Director
Mobility India



1

Over

BILLION

people globally
experience
disability

10億人以上の人が
障害を経験している



7人に1人

1 in 7 people

障害の出現率が増加している

- 高齢化：2050年までには60歳以上が20億人
- 慢性の健康障害：糖尿病、がん、心臓病、肥満など
- 負傷：交通事故、暴力、やけど、転倒など



MOBILITY INDIA モビリティ・インディア

1994年創立 バンガロール



農村地域や都市スラムに住む貧しい障害のある人々の多くがリハビリテーション・サービスを利用できるように、変化をもたらす

ビジョン



障害のある人、その家族など、恵まれない人々が教育、保健、生計、質の高い生活に平等の権利を有する、インクルーシブでエンパワーされたコミュニティ

優先すべき人々



障害のある人、貧しい人、特に子ども、女性、高齢者のために働くこと

活動の焦点



障害インクルーシブ開発

主な活動



- リハビリテーション・サービスの提供
- 障害、リハビリテーション、及び開発に関する訓練・研修
- コミュニティにおけるインクルーシブ開発 – 都市部、都市周縁地域、農村地域
- 適正技術の開発と促進
- 草の根団体の能力育成
- コルコタの地域資源センター



International
Labour
Office



United Nations
Educational, Scientific
and Cultural Organization



World
Health
Organization

貧困と障害の悪循環

CBR

A Strategy for Rehabilitation,
Equalization of Opportunities
Poverty Reduction and
Social Inclusion of
People with Disabilities

Joint Position Paper 2004



貧困

障害

CBRジョイント・ポジション・ペーパー2004

適切なサービス・基本的ニーズへのアクセスが乏しい

障害のある人は基本的ニーズへのアクセスで障壁に直面する



- リハビリテーション・サービスと医療へのアクセスは限られている
- 教育を受ける機会が少ない
- 生計活動は、特に障害のある女性は、めったにしていない。
- 認識の欠如、文化的・社会的障壁
- 物理的アクセシビリティ
- 当然の権利・資格へのアクセスが乏しい
- 社会的インクルージョン、社会参加の機会が減少
- コミュニティや地方行政から優先扱いされることが少ない

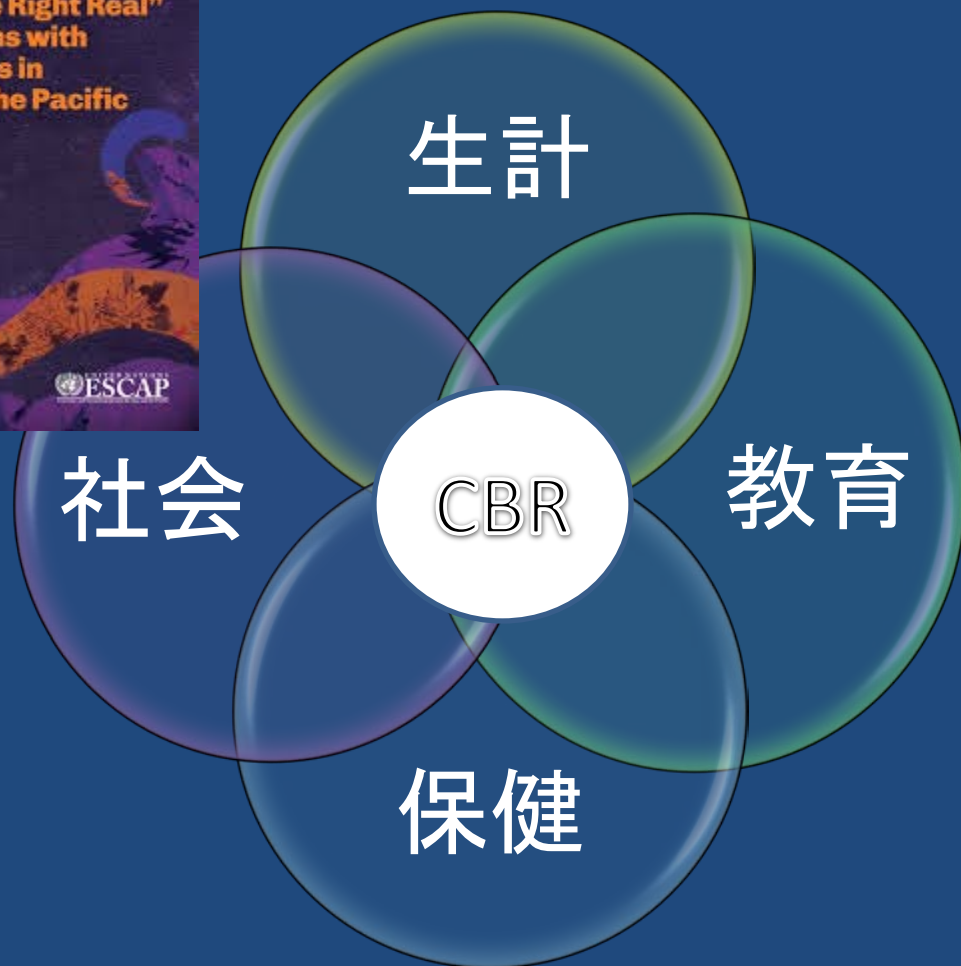
アクセスへの障壁が原因となって・・・

- 健康上により大きな影響が出る
- 学業成績がより大きく低下する
- 経済活動への参加が少なくなる
- 貧困率が高くなる
- 依存心が強くなり参加が制限される



インチョン戦略

Incheon Strategy to "Make the Right Real" for Persons with Disabilities in Asia and the Pacific



Community-Based Rehabilitation CBR Guidelines



CBRガイドライン

障害のある人々、その家族、コミュニティの生活の質を促進させる、権利と開発を実現するためのツール





「貧困は最大の暴力である」
マハトマ・ガンジー

障害インクルーシ
ブ開発を通じて
貧困に取り組む



MI CBR プログラム



都市スラム バンガロール
1999年
人口 294956
PWD 969



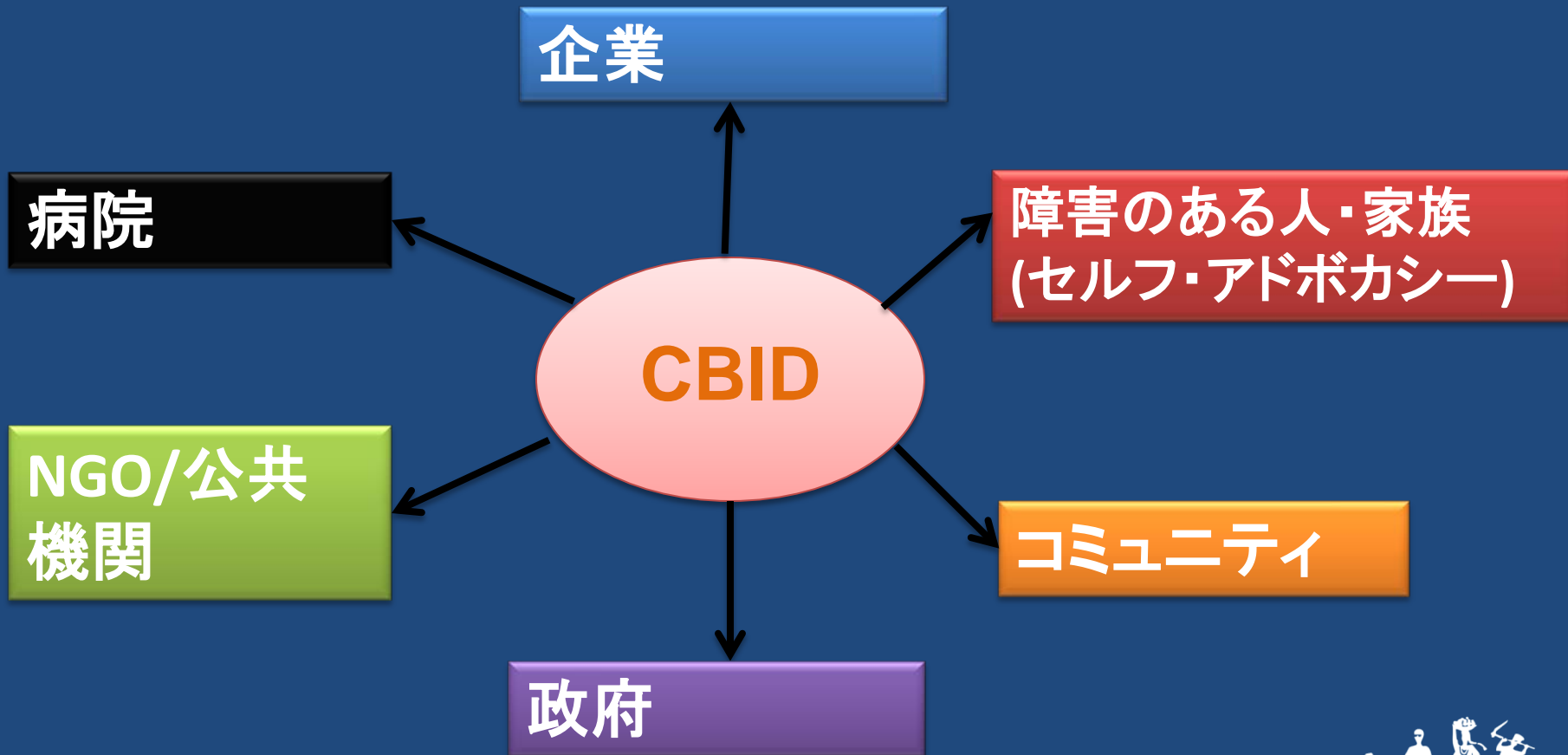
農村地区
チャムラジナガル
(カルナータカ州)
2007年
人口 287924
PWD 3997



都市周縁地域
アティベル郡(バンガロール)
県 - 2008
ジガニ - 2013
人口 146092
PWD 1479

MIの戦略

第一日から様々なステークホルダー（関係当事者）の参加および
インクルージョンを確実にする
障害のある人々のためにインクルーシブ開発を促進する



私たちのとったアプローチ

(開発と人権)

- リハビリテーション・サービスの提供
- 中核となる問題は貧困だった
 - 自助グループを設立- IGP

医学・慈善モデル

社会モデル + 権利
ベース

- PWDは自分たちの潜在能力を自覚していなかった
- コミュニティの当事者意識が乏しかった

- PWDは自分たちの潜在能力を自覚し、関与を高めた
- コミュニティの当事者意識が高まった。

地元のコミュニティからCBR職員を採用し、ボランティアを参加させる (主に 障害のある人)



アプローチ

有力な公的立場にあるカギとなるリーダーを特定し、
影響を及ぼす



アプローチ

様々な関係当事者と協議の場を持つ
啓発・意識向上プログラム



他の関係当事者に活動のための 技術支援を提供



より大きなコミュニティに役立つための活動が始まる



アプローチ

全ての活動にコミュニティの他の恵まれない人々を含めた



アプローチ

コミュニティ問題の取り組みに参加するよう
障害のある人、その家族を奨励する



結果

障害のある人々、彼らの問題を特定し、解決策を見出す



結果

可視化が進んだ



保健と衛生状態 – 公衆衛生



トイレよりも携帯電話の普及率をはるかに高い

「トイレという基本的な必需品であり尊厳を守るものを用意する余裕がない」人が非常に多い。障害のある人はなおさらである



障害のある子どもの教育

- 途上国の障害のある子どもの98%は学校に行っていない。障害のある女子の99%は読み書きができない。
- 障害のある子どもが利用できる水と衛生設備が無い。



促進 ..

コミュニティ補習教育センター

- 障害のある子ども、障害のない子どものためのコミュニティ補習教育センターを始めた
- コミュニティからの貢献一場所、電気、教材開発用の資源
- コミュニティからボランティア
- 障害インクルーシブ教育についての教員研修に投資する

コミュニティの当事者意識が高まった



インクルーシブな子どもたちのグループと 子ども議会 — 責任感とリーダーシップを 育成するために

- どんな社会改革であれ子どもたちは偉大な資源であり、変化をもたらす最高の主体である
- 子ども議会はCEC（学習指導センター）の村レベルで組織される。障害のある子どももいない子どもも集まって、自分たちや村に関連する問題を話し合う。



インクルーシブな議会（障害ある子どもたち、障害のない子どもたち、男女同権）

子ども議会

- 子どもたちは大臣(教育、保健などの分野で)に選出され、グループが提起した問題に取り組むための行動計画を練り上げる
- 保健、衛生状態、安全の促進
- 学校のトイレと水(ドア)
- お昼の給食の質が改善
- 村には街灯が無かった
- 学校に行っていない重度障害のある子ども
- 2011年国勢調査のためのデータ収集
- 家族、学校、コミュニティで、子どもたち、特に障害のある子どもたちの意見に耳が貸されるようになった



結果

- 女子(障害の有無に関わらず)の参加が増加した。この増加は社会の観点の変化を示している。社会がMDG(ミレニアム開発目標)3:「ジェンダー平等の推進と女性の地位向上」に向かって改善していることを表している。
- 自助グループと共に行った地方行政へのロビー活動を通じて、障害のある子どものメインストリーム教育プログラムへの就学および中途退学の阻止・退学者の復学を保証したことが、広範囲な話し合いの場を囲みながら教育に関する認識を促すことになった。
MDG2:「普遍的な初等教育の達成」
- 障害のある子どもの参加は社会的インクルージョンの促進に役立った。アクセスの良い社会基盤を整備するように関係当局に圧力をかけて、障害のある子どもたちがためらわずに授業に出席できるように奨励する(CRPD第24、29、30条)。

インクルージョン

- インクルーシブな子ども議会は、伝統的な信念・規範という状況をより建設的でインクルーシブな社会に変える理想的な構想である。
- 自分たちのコミュニティに変化を起こすことに対して当初から勇気づけられ支援されているので良い影響がある。
- 子どものころに育まれた価値観は、後年になって人をより逆境に強い人間にする。
- 子どもたちが自分の権利と責任を知り、自分のコミュニティの開発に貢献するのは、非常に重要なことである。

インクルーシブな自助グループの促進 インクルーシブな成長と持続可能な発展



貧困削減

労働および雇用の見通しを改善する

- 働き甲斐のある仕事、必要な教育がある
- 訓練と援助
- 障害のある人の立場に沿った環境/職場整備



コミュニティは障害のある人と家族に対して肯定的な態度を取るようになった。完全かつ積極的な参加、インクルージョン、意思決定





支援機器と援助サービスの利用 とそれらへのアクセスを保証する

- コミュニティ内でコミュニティ・メンバー、行政、他の保健要員の能力育成
- コミュニティでのリハビリテーション・医療サービスへのアクセス
- 物理的リハビリテーション・ワークショップ



自信と自尊心が高まった。男女平等。障害のある女子・女性はメインストリーム開発における積極的な参加者である。





それぞれのコミュニティ
で自立した生活ができる
ようになる

インクルーシブな社
会で尊厳をもって
自立して生きる



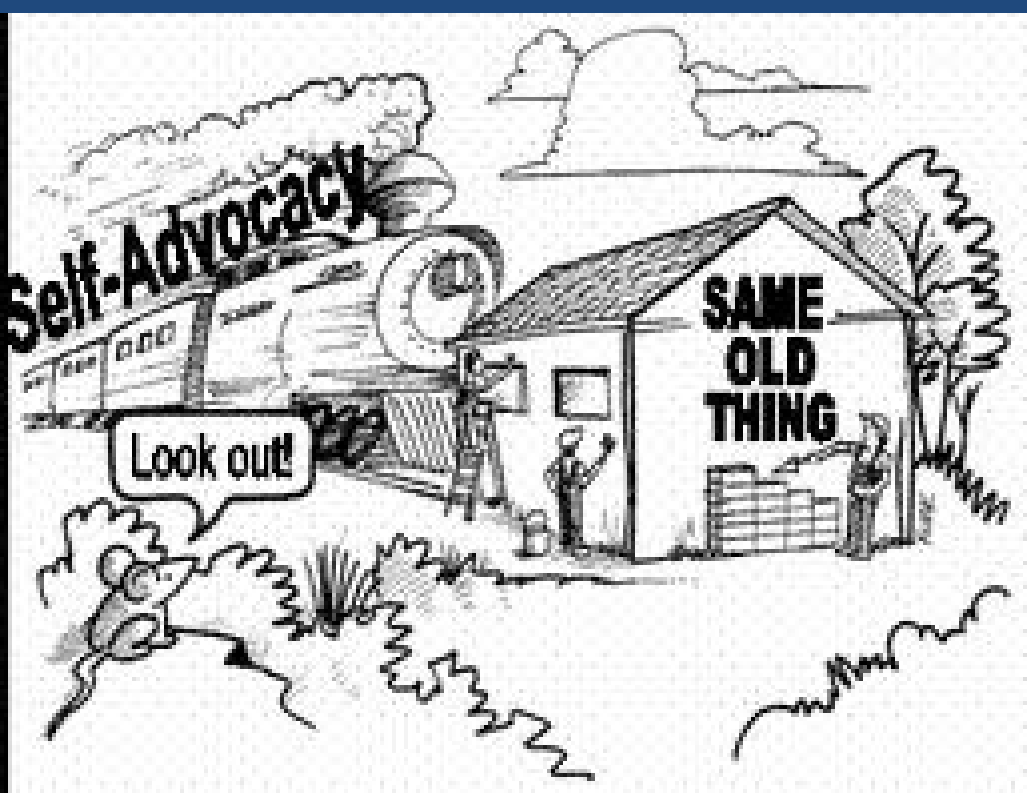
CHAITANYA

チャイタニヤ障害者団体



JANAPRIYA ANGAVIKALAR

協同組合



地元ボランティアのスキルを高める



障害の先を見る – 障害のメインストリーミング – メインストリーム開発構想のすべてに障害問 題を含める



障害の先を見る – 障害に特定したプログラム

障害のある人と家族をエンパワーし、生活の質を高めるための障害に特定したプログラムを援助する;
参加と当事者意識



障害の先を見る – リバース・メインストリーミング (逆統合)

他の恵まれない人々のグループおよびコミュニティ一般を統合した障害特定プログラム – これはコミュニティの参加と当事者意識を確実にする





インクルージョンはすべての人のために開発と人権を保証する



人の多様性と人間性の一端として違いを尊重し、障害のある人を受け入れる

容易にできるインクルージョン

- 社会的排除と基礎サービスへのアクセスの欠如は機能障害より以上に人の能力を失わせる
- コミュニティの参加はCBRプログラムが成功する上で重要である
- コミュニティを動かすという戦略はCBRプログラムには不可欠な要素でなければならない
- コミュニティのメンバーを関与させてエンパワーすることは、コミュニティに存在する障壁を確実に取り除くことになり、かつ、コミュニティの姿勢の変化など生活のあらゆる面を網羅する多部門アプローチによって、障害のある人と家族をコミュニティ活動に積極的にインクルージョンする役割を確実に果たすことになる

障害のある人も含めて、 誰も取り残さない





(MIの写真) 開発とリハビリテーションの分野で19年間存続している ...